

理科授業づくり講座 授業研究会

先日（7月7日）、第1回「理科授業づくり講座」の授業研究会が行われました。6月の教材研究会で学力調査官や西部教育事務所の指導主事からご助言いただいたことや、グループ協議で出された他校の先生方や本校教員の意見等を基に、教科会で単元構想に修正を加え、当日を迎えました。

今回の授業研究会は大人数での参観になるため、四万十市教育委員会のご協力の下、隣室でサテライト方式でも参観できるように準備していただきました。ありがとうございました。



松田奈智先生による2年2組の授業 「生物の体のつくりとはたらき」

問題 :なぜ光合成が行われなかったのだろうか？

めあて :自分たちが考えた原因を確かめるためにはどのような実験をしたらいいか考えよう。



サテライト方式での授業参観(本校教員)

授業者と教科長(野村先生)による授業省察

グループ協議(写真は本校教員
チーム[国・社・数・美・体・家])

教科主任会

～理科授業づくり講座 授業研究会からの学び～

理科の授業づくり講座を受け、先日の教科主任会では、教科長のみなさんに「**自分の教科で確認したい授業研究会からの学び**」について3点ずつ挙げていただきました(下の*部分)。ここでは、みなさんからどのような点が挙げられたのかを紹介いたします。各教科会では、教科長のみなさんが挙げた3点については特に確認をお願いします。

◆小学校との学びの系統性

*小学校の学びを意識して系統性を踏まえた学びにする。*小学校の学びを踏まえてレベルアップさせる。

◆課題設定の在り方 ～自分事にする導入の大切さ～

*自然の事・物、現象から生徒との対話を通して課題の設定を考える。

*今の現状から生徒との対話を通して課題の設定を考える。

*前時に表現した内容の振り返りを基に本時の思考を深める。

*結果から原因、理由を仮定して課題を見つける。

*課題に向かうための意識を子供に持たせるための発問やめあてを工夫する。

*目的意識を持ってできるように課題の設定を明確にする。

◆目標を達成するための授業展開

*学習指導要領での指導事項を踏まえた課題解決型の問題を設定する。

*教科の学習過程を通して資質・能力を育成する。 *生徒が考える授業づくり(教師の誘導にならない)

*見方・考え方を働かせる指導の在り方を考える。 *対話の必要性を仕組み、生徒同士で対話をさせる。

*何のために比較するのか、ポイントを意識づける。 *具体物で考えさせながら形にしていく。

*タイムマネジメント(どの部分で見方・考え方を働かせたいのか。)

